

周防大島町 議会だより

2016・7

第46号

発行／周防大島町議会
〒742-2192
周防大島町大字小松 126-2
TEL:0820-74-1003(議会事務局)
編集／議会広報編集特別委員会
印刷／(有)日良居タイムス

今回の主な内容

- 議員定数2人削減…………… 2P
- 条例一部改正、制定…………… 3P
- 一般質問(3人登壇) …… 4～6P
- 防災コーナー・議員派遣…………… 7P
- 地域おこし協力隊・編集後記 …… 8P



かつて、井岡一翔選手の父親「井岡一法氏」(旧橘町安下庄出身)もプロボクサーであり、叔父の井岡弘樹氏は、元世界2階級制覇王者であります。

井岡一翔選手は、プロデビュー後、国内最速で世界チャンピオンのベルトを手にし、無敵のままWBA・WBC統一王者の3階級制覇を達成しました。『ボクシング界のサラブレッド』という通称もあります。

井岡一翔選手は、父親のふるさとであります「周防大島の地」で毎年、数回トレーニングに励んでおります。

我が郷土「周防大島町」にゆかりがある、ボクシング界のエース井岡一翔選手にスポットをあててみました。なお、7月20日には、WBA世界フライ級タイトルマッチがあります。ご声援をお願いします。



世界フライ級チャンピオン
井岡一翔選手(写真上中央)

6月定例会概要

平成28年第2回議会定例会は、6月6日に本会議を開会し、9日間の日程で開催され、6月14日に閉会した。

議案等の内容は、繰越明許費繰越額の報告1件、専決処分の報告(損害賠償の額を定めること)2件、専決処分の承認を求めることについて3件、平成28年度各会計補正予算3件、条例の制定1件、条例の一部改正1件、それぞれ別の案件については慎重審議・討論・採決し全て可決された。

一般質問では、吉田芳春議員(落石防止の安全対策・中学校統合の方向性・今こそ地方創生への取り組み)、広田清晴議員(長浦リゾート負債の処理・中学校一校統合・定住促進・イノシシ対策)、平野和生議員(次期町長選挙における町長の意向)について3人の議員が登壇し、椎木巧町長・西川敏之教育長ほか執行部に対して私たちの身近な行政や教育行政について一般質問を行った。

条例の改正・制定

▼町議会議員の定数を定める条例の一部改正「可決」

議員定数「削減」

16人から14人へ

10月の町議選から

議員定数については、先に住民の方々から議員定数に対する要望があった。

議員定数削減ありきではなく、定数増か、現行どおりでよいなどの要望を踏まえ、多岐(人口・面積・財政状況・他町との比較など)にわたって議員間で引き続き議論を行った。

このたび、周防大島町議会の議員定数を現行「16人」を「14

人」に削減する条例の一部改正案は議員発議によって提出された。

議員定数を議会自らが決定しなければならぬことに、一人ひとりの議員は真剣に考えぬき、それ相応の覚悟を持って慎重審議し、反対討論を広田清晴議員、賛成討論を吉田芳春議員が行った。

採決の結果、賛成13人、反対1人で賛成多数で可決された。「議会が変われば、もっと住みよい住みたくなるまちになるはず」という思いで議会は今、新たな一歩を踏み出した。

今日、地方分権・地方創生という新しい時代を迎えるにあたり、議会の役割はますます重要性を増し、これまで以上に議会の力量が問われることになる。更に議員一人ひとりに高い資質が求められる。

本町の議員定数は、今後、人口の推移や社会構造などによって左右されると思われる。町民皆様方のご理解・ご指導・ご協力をお願いする。

なお、次期、周防大島町議会



周防大島町議会議場

議員一般選挙は今年の10月18日(火)に告示、10月23日(日)に投開票が予定されている。また、周防大島町長選挙も同日程で執行される予定である。

「議員定数の推移」

- 平成16年合併前 56人
- 平成16年合併当初 26人
- 平成19年11月 20人
- 平成24年11月 16人
- 平成28年11月 14人

＝近隣市町の議員定数＝

(人口は28年5月現在)

市町名	人口(人)	面積(km ²)	定数(人)	人口/定数
光市	52,369	92.13	18	2,909
柳井市	33,134	140.05	18	1,841
周防大島町	17,468	138.09	16	1,092
田布施町	15,688	50.42	13	1,207
平生町	12,428	34.58	12	1,036
上関町	3,005	34.69	10	301

議員定数については、その上限が地方自治法によって制限されていたが、平成23年の地方自治法の改正により、上限が撤廃された。
議員定数を何名にするかは、各自自治体の意思により決定することが可能になった。

「採決の結果」

氏名(議席順)	採決
魚谷 洋一	欠席
平川 敏郎	○
田中隆太郎	○
広田 清晴	×
久保 雅己	○
中本 博明	○
魚原 満晴	○
今元 直寛	○
松井 岑雄	○
平野 和生	○
吉田 芳春	○
浜本 康裕	○
新山 玄雄	○
小田 貞利	○
尾元 武	○
荒川 政義	—

(注) ○は賛成、×は反対の表示。荒川議長は採決に加わらない。

▼周防大島町国民健康保険税 条例の一部改正

国民健康保険税の課税限度額引き上げと軽減世帯の拡大

地方自治法の一部改正に伴い、国民健康保険税の基礎課税額等に係る課税限度額52万円を54万円に、後期高齢者支援金等課税額に係る課税限度額17万円を19万円に引き上げる。
また、国民健康保険税の減額の対象となる所得の基準について、5割軽減の対象となる世帯の軽減判定所得の算定において被保険者の数に乘すべき金額47万円を48万円に引き上げるもの。

【補正予算】

(単位：千円)

	補正前の額	補正額	計
一般会計	13,902,000	28,153	13,930,153
国保特別会計	3,849,582	3,338	3,852,920
渡船特別会計	85,001	151	85,152

▼周防大島町犯罪被害者等支援 条例の制定

犯罪被害者支援へ

犯罪被害者等基本法の基本理念にのっとり、犯罪被害者等に対する支援を総合的に推進することにより、安全で安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与することを目的とするもの。



大島幹部交番の移転建設予定地・大島防災センター西隣

どうする私たちの町づくり 一般質問

「こが」
知りたい！
聞きたい！



吉田芳春 議員

落石防止の安全対策を

問 島根県の県道で通行中の軽自動車に直径約1メートルの落石が直撃し、助手席に乗っていた県内の女子学生が死亡する事故があった。今回の崩落現場には、防御用ネットの金網もモルタルの吹き付けもされていないかった。

本町の国道437号線の長浦地区に「落石注意」と表示した



国道長浦地区に落石注意の看板

問 今から約9年前、小中学校統合問題推進協議会は、それまでの保護者説明会32回、統合問題懇談会16回、そして議会全員協議会等への説明後、平成19年4月9日に、中学校統合の在り方について慎重審議を行った結果、平成29年4月に1校への統合を目指すが、社会情勢の変

中学校統合の方向性は

看板が数年前から設置されている。「落石注意」の立て看板の標識だけで落石防止の安全対策は十分確保されているのか。
答 平成25年6月の落石時、道路利用者への落石に対する注意喚起のために設置した。現在は道路法面に浮石等は確認できておらず、安全は確保されている。



地区別懇談会

化や保護者・地域の声に配慮しながら進めるよう教育委員会へ答申を行っている。今現在どのような認識されているか。
答 当時の住民代表、学校関係者及び議会が参加した議論を踏まえた上で、推進協議会が出された答申であり、現在の教育委員会としても大変尊重すべきである。

問 「中学校統合に関する町民意識調査報告書」が、昨年の11月に公表されてから未だ持つていない。示されているのは各学
校運営協議会の意見集約やPTA等のヒアリングを参考に教育委員会議で協議し、中学校統合問題の案を今年の11月に作成するとしているが、計画どおり進んでいるのか。
答 現在、学校運営協議会によっては、保護者
を対象にアンケート調査や地区住民を対象とした地区別懇談会を開き意見集約に努めている。次第に議論が活発化している。
問 郡内の全4中学校の生徒が約250人足らずになった現状を直視し、教育委員会として中学校を統合するのかわからないか、統合するのであればどの中学校にいつから統合するのかを早く結論を急ぐべきである。
答 11月に各学校運営協議会から出される意向調査票について、12月以降に新教育長が、改選後の町長により、同じく改選後の議会の同意を得て、教育長が教育委員長を兼ねる新制度に基づく教育委員会において協議する。
問 統合賛成系の意見を踏まえて統合校舎を久賀中学校となっているが、他の中学校の統合校舎になった場合、今から2年前の平成26年に約7億8百万円で新校舎を改築した久賀中学校の校舎をどのように活用されるのか。
答 仮にそのような方針となった場合、他の廃校校舎と同様に地元住民の意見を聞き、跡地利用について検討する。

町政を問う!



広田清晴 議員

バブル期の

負債処理は大事な課題

問 バブル期の負債の処理（長浦リゾート）は町長が本気に取り組むべきであり、大きな懸案の一つ、昨年示された資料によると1億7,800万円の負債残高となっている。

この処理方法として出資金を90%減少し債務にあてる。指定管理料が少ないので非公募にしたい。会社として新たに借り入れを起こすとの説明であった。その後の状況について問う。

答 ①瀬戸内海リゾート株式会社
の負債ピークは平成9年に2億4,600万円で現在に至っている。

②資本金を99%減少した場合

繰越欠損金は5,400万円の残となる。減資は身の丈に合う会社につながる。（開発会社から二施設管理運営企業）

③減資実行後も繰越債務は残るので、経営や財務改善をみきわめながら対策をとる。

問 昨年度会社としての借入は、
答 1,740万円である。



グリーンステイながうら

中学校一校統合は

急ぐ必要なし

問 私はいままで、「中学校の平成29年一校統合については無理がある。平成29年統合方針にこだわることなく父母、子供たちの意見を十分反映することが大事」との立場で、議会内外で活動してきた。

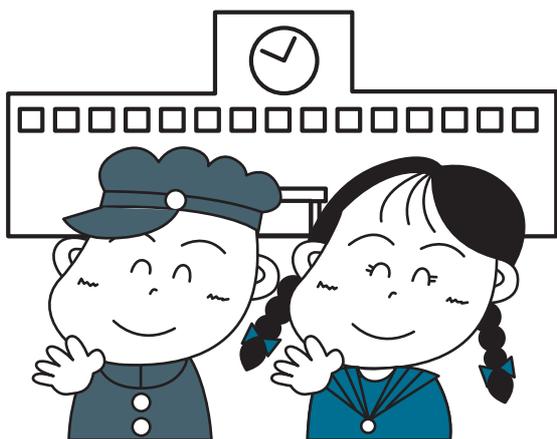
アンケートの結果は一校統合の是非は伯仲の状況であった。今後「十分な議論の場を保障することが大事」と考える。今後の取り扱いについて問う。

答 本年夏までの間は、小中学校運営協議会を中心に、各学校において教育委員会が提示している久賀中学校への一校統合にこだわらず「まずは子供たちがどのように育ってもらいたい、またそのように育ってもらうためには、どのような中学校が良いのか」を協議していただく。その協議結果を持って、夏休み最後に開催する学校運営協議会で、他校の意見を交えて協議する。

その後たたき台で示した、①久賀中学校統合案②統合中学校の学校概要を参考に協議し③各運営協議会ごとに取りまとめ④教育委員会に各運営協議会ごとに調査票として11月中に出していただく。

問 小学校、中学校の統廃合問題はある意味で町づくりの基本と考える。町長の見解を問う。

答 小中学校が、その地域のコミュニティの中心的役割や、集落機能を維持するうえで、重要な役割を担っていることは異論のないところである。



町政を問う!



平野和生 議員

次期町長選挙への意向

問 椎木町長は、平成20年10月の町長選挙に「合併して良かったと実感できる町づくり」を指し、見事に初当選され、財政健全化や賑わいの創出に大きな成果をあげられた。

しかしながら昨年度より大島・久賀地区の公共下水道工事や、今年から始まる浮島への海底送水事業がある。

また、いつ起こるかわからない南海トラフにおける東南海・南海地震に備えての災害対策。現在の高齢化社会においての高齢者福祉対策等まだまだ課題は山積している。

昨年12月に策定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」

に掲げる4つの政策の基本目標を実現していくためにも是非とも椎木町長の続投を望むものである。

この重要な時期に椎木町長の優れた行政手腕に期待し出馬のご意思についてお尋ねする。

答 私は平成20年10月、初当選させていただき、平成24年10月には「観光交流人口100万人構想」をステップアップした「交流から定住へ」をキャチフレーズに定住対策を一番に掲げ再選させていただいた。

この間、町議会の皆様をはじめ多くの町民の皆様からのご指



出馬表明する椎木町長

導とご協力をいただきながら職員とともに町の将来像である「元気にここに心安心の島」を目指し、取り組んで参った。

顧みますと、町長としての一番の取り組みでありますが、合併直後のあの厳しい財政状況を経験している私としては、各政策のベースになる財政の健全化が第一であった。

住民福祉の充実を図りながら行財政改革を進め、財政の健全化に努めて参った。

お蔭様で合併時より単年度で人件費が8億円の減少、公債費は11億円の減少、262億円あった町債残高を86億円削減することができた。財政調整基金につきましても51億円まで造成し、漸く中期的な財政運営への道筋はつけられたものと感じている。

これもひとえに、議会並びに町民の皆様のご協力のお蔭でありまして改めて感謝申し上げます。

このように、財政的には成果の出ている反

面、人口減少問題は合併時より更に大きな課題となっている。

観光交流人口100万人構想の中で新たに観光の柱として瀬戸内のハワイを発信、体験型修学旅行の誘致などを通じて、昨年の観光交流人口98万人となり、100万人が現実の数字になりつつある。

今後は、アワサンゴなどの貴重な海域でのエコツアーや小型クルーザーによるクルージング。バイクや自転車ツアーの掘り起しなどを進め交流人口100万人を達成したいと思う。

また、町内での働く場の確保と交流人口をいかに定住へ繋げるかが一番の課題である。

これからは、更に大胆に行財政改革を推進し、充実した子育て支援による定住策。実効性のある防災対策、更なる健康寿命の延伸などの重点課題に全力を尽くしていくことが、今の私に課せられた天命であるとの考えに至り、次期町政運営の重責を担わせていただくべく、10月の町長選挙に臨みたいと決意を新たにしているところである。

防災コーナー

天災を忘れない

「天災は忘れた頃に来る」随筆家で、物理学者でもあった寺田寅彦氏が関東大震災に語ったとされる警句はいまだに有効性を失っていません。

平成7年に発生した「阪神淡路大震災」から16年後、平成23年に発生した「東日本大震災」から5年後、平成28年の本年4月に発生した「熊本地震」日本はこれまでに何度も大きな自然災害に見舞われてきている。

近隣では、土砂災害や風水害を受けた地域もありますが、幸い周防大島町では、平成16年の台風被害後、大きな災害はありません。

今日までは、大変恵まれた地域だと感謝しかありません。

しかしながら、南海トラフは、近い将来必ず発生すると言われていきます。地震は現段階では予測できませんが、台風・豪雨・土砂災害は気象情報で予測でき

ます。自然を決して甘く見てはなりません。

行政の防災対策ばかりでなく、災害国に住む私たち一人ひとりが、「天災を忘れない」という決意を固める必要があると思います。

東日本大震災・熊本地震で自然災害の怖さを痛感したところであり、防災に対する認識を改め、災害に向き合う備えを官・民一体となり、地域の絆を大切に取り組むことが必要であると思います。

「自然に対する謙虚さを忘れないように！」

防災対策特別委員会

委員 久保雅己



地震で倒壊した家屋

Ⅱ 人 事 Ⅱ

柳井地区

広域消防組合議会議員

魚谷洋一議員 ↓ 久保雅己議員

Ⅱ 議員派遣 Ⅱ

【議員研修】

・柳井地区

広域市町議会議員研修会

目的

構成市町議会相互の連携と地方自治の発展に寄与する。

派遣場所

柳井クルーズホテル

期間

7月28日(木)午後3時～

講師

合同会社フォーティR&C

代表 水津陽子氏

演題

町づくりはひとつづくり
↳ 地域資源の見つけ方、
活かし方

派遣議員

議員全員

【町人会関係】

・広島周防大島町人会

目的

会員との情報交換・交流を通して親睦を深めることにより、ふるさと大島の発展に寄与する。

派遣場所

ホテルグランヴィア広島

期 日

7月17日(日)午前11時30分～

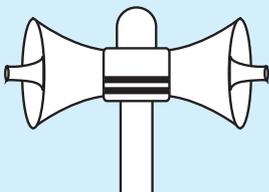
派遣議員

広田清晴議員、濱本康裕議員
新山玄雄議員、小田貞利議員
尾元 武議員、荒川政義議長

「議会傍聴」

議会では定例会(3・6・9・12月)と臨時会等を傍聴できます。開催については、防災行政無線でお知らせします。

町民の皆様
さんの傍聴
をお待ちし
ております。



地域おこし協力隊

地域に活力を！



町の地域おこし協力隊員に委嘱された山崎千寿さん（右側）と福田友美さん（左側）

山崎千寿隊員

空き家情報

お待ちしております！

今年の1月から空き家バンクの担当をさせて頂いています。

私は大島庁舎の定住促進協議会に席を置いておりますが、ここにいると大島への移住を希望し「空き家」を探しているという問い合わせが多く寄せられることに驚きます。

しかし、町で行っている空き家バンクの登録件数は現在10件に届きません。移住希望者が



竹伐り大会に参加の皆さんと（前列中央）

らひとつずつやり、一件でも多くの空き家をご紹介できるよ

増えていて、空き家自体の数は多いのに貸せる物件が不足しているという歯がゆい状況です。

人が住む状態にするには修繕費がかかる、不用品を撤去するのが大変など、手をつけにくい問題で解決するには時間がかかるかもしれませんが、できることか

う取り組んでいきたいと思っています。

福田友美隊員

～抱負～

東京で約11年半グラフィックデザイナーとして働いたのちに、憧れだったハワイへ渡り1年半の間、現地の通販会社にてデザイン関連の仕事に携わりました。

自然豊かな環境の中で過ごすうちに、帰国後は山口へ帰る地元役に立ってデザイン関係の仕事がしたいと思うようになり、地域おこし協力隊での周防大島チャンネル番組制作に応募をさせて頂きました。これから島の方々と繋がりを深めながら周防大島チャンネルでの情報発信に取り組み、島内外で楽しんで頂ける映像を作っていきたいです。

また、これまでのデザインとハワイでの経験を生かして、「瀬戸内のハワイ」周防大島のステキな魅力を、映像やデザインを通してさらにPRしていければと思っています。

編集後記

昨年から議員定数について議論して参りましたが、6月定例会において「現行16人」を「14人」に次期選挙から議員定数を2人削減することにしました。

議員定数は、平成23年に地方自治法の改正により、上限が撤廃されました。議員定数を何名にするかは、各自自治体の意思で決定することが可能になりました。しかし、議員が何人必要なのか、何人が適当なのか、明快な理論的根拠がなく、難しい問題であります。議員の人数は多いほどいいという考え方もありますが、これからの議会は、政策にウエイトを置いた議員活動が求められることとなります。

町民、皆様方のご指導・ご協力・ご理解を賜りますようお願い申し上げます。（吉田芳春）

議会広報編集特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 吉田 芳春 |
| 副委員長 | 濱本 康裕 |
| 委員 | 平川 敏郎 |
| | 田中隆太郎 |
| | 今元 直寛 |
| | 松井 岑雄 |
| | 尾元 武 |